

学位論文審査の結果の要旨（課程）

学位論文審査申請者氏名	田仲 喜一郎
学位論文名	干拓造成地の持続的維持管理に関する研究－国営河北潟干拓事業を対象として－

学位論文審査終了年月日	学位論文審査の結果	
令和 5 年 1 月 11 日	(合格) ・ 不合格	
学位論文審査の結果の要旨は次ページ以降（別紙記載要領により作成のこと。）		
学位 論文 審査 委員	主査（自署） 大澤 和敏	副査 松井 宏之
	加藤 亮	黒田 久雄
	守山 拓弥	

※平成 30 年 4 月入学 農業環境工学専攻 農業環境工学大講座 R3. 3. 31 満期退学	
学位論文審査申請	令和 4 年 11 月 30 日
学位論文審査委員の選出	令和 4 年 12 月 12 日
学位授与の可否の議決（可・否）	令和 5 年 3 月 1 日

学位論文審査の結果の要旨

田仲 喜一郎

本論文では、1963年に着工し1986年に完了した国営河北潟干拓土地改良事業を対象に、事業完成後約30余年にわたる地域開発効果の検証や効果発生過程で育まれた地域性を考察するとともに、構築基幹施設の補修履歴調書を基に管理状況の実態分析を行った。また、日本国内の特徴的な既存干拓地を対象として調査を行い、河北潟で得られた結果と合わせて、干拓造成地の持続的維持管理の方策について総合的に検討した。これらの議論から、将来に向けた構築施設の持続的維持管理を図るには、干拓地の地域特性に伴った多岐にわたる関係施設の管理受託者の連携と共に、管理体制を強化して「インフラ長寿命化基本計画」の徹底した実施が必要であり、そのためには河北潟干拓地で検討したようなこれまでの施設維持管理の実態分析が重要であると結論付けた。干拓造成地施設の維持管理に関する特性や課題を抽出し、持続的な干拓造成地の在り方を提案したことは、今後の農業・農村に関わるインフラ長寿命化対策の検討や農用地を含めた新たな国土計画の策定のために役立てられると期待できる。

以上のように、本論文は、多くの新しい知見を有し、実際問題への貢献も多大であること、また、論文の構成・内容および公表論文数なども適切であることから、本学位論文審査委員会は、全員一致して、本論文が博士（農学）の学位論文として十分価値のあるものと判断し、合格と判定した。